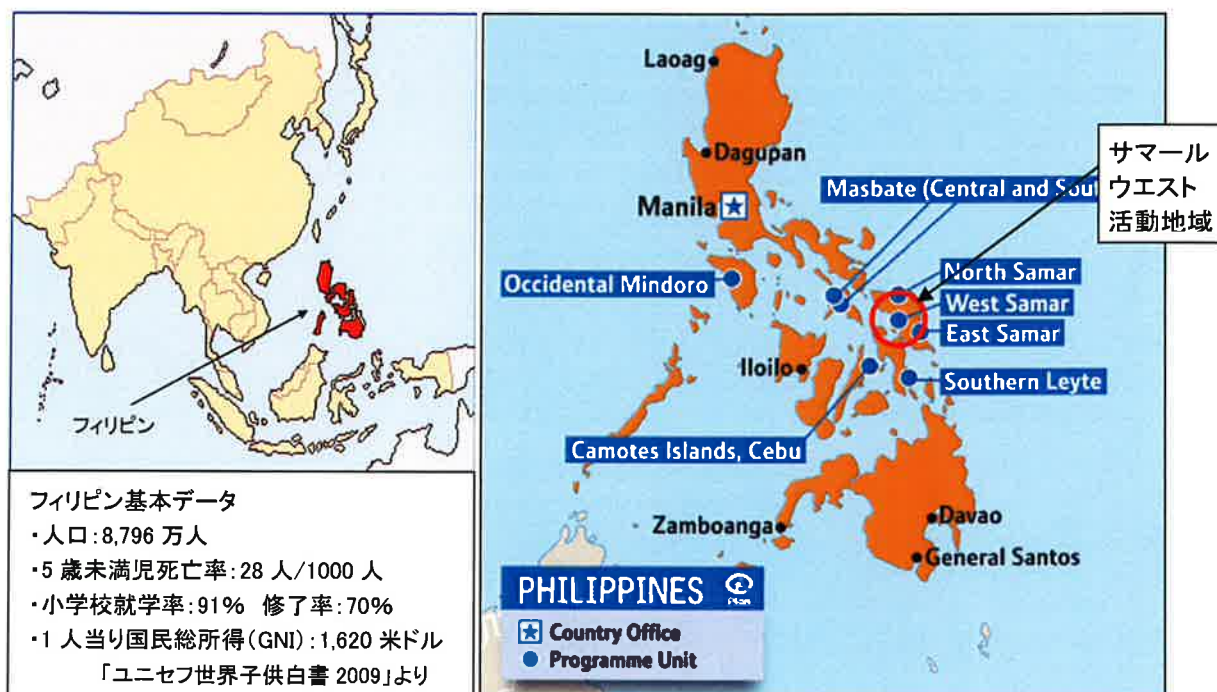


しょうがっこうをおくる会様 プラン特別プロジェクト フィリピンにおける学校建設プロジェクト 完了報告書

1. プロジェクトの背景・概要

プランは、フィリピンで1961年に活動を開始して以来、教育、保健、住環境の改善、住民の収入増加など多岐にわたる分野で、住民参加型の地域開発活動に取り組んでいます。



このプロジェクトの実施地域であるサマール州ダラム町バレス・ベロ村は、サマール島西部に位置する離島、ダラム島にある貧しい農村です。村では、貧困から派生する様々な問題を抱えていますが、中でも教育環境の整備は緊急の課題でした。3人の教師のもと、1年生から6年生までの児童154人(男子81人、女子73人)が学ぶ村の小学校では、2つあった簡易教室が台風により崩壊したため、教室不足が深刻となり、5、6年生は屋外で授業を受けざるを得ない状態でした。また、教科書や机・いすなどの教室備品も不足していたため、1冊の教科書を数人で共有し、1つのいすに3人で座ったり、立ったままで授業を受けている子どもたちも少なくありませんでした。このような環境では教師も子どもたちも授業に集中することが難しく、教育の質、学習効率ともに低い水準に留まっていました。

このプロジェクトでは、上記のような状況を改善し、子どもたちがよりよい環境で学習できるようになることを目指して、パレス・ペロ小学校に新校舎1棟(2教室)の建設と教材・教室備品の支給を行いました。

2. プロジェクトの経過

このプロジェクトは、2008年9月の開始以来順調に推移し、以下の活動を実施して、2009年2月に無事完了しました。

■ プロジェクトの準備

ご支援決定後、住民集会を開いて、プロジェクトについて話し合いを行いました。この集会には、親、子どもたち、村議会の議員など地域住民の約8割が参加して、プロジェクトが村にもたらす恩恵について確認し、教室の建設予定地やプロジェクト成功のために自分たちが果たすべき役割や責任について話し合いました。

子どもたちは、教室の色、ドア・窓の数、室内の様々な部分の大きさなど建物のデザインについて提案し、専門技術者がその案を取り入れて、建設計画・設計図・費用見積りを作成しました。村議会は、建設予定地の所有者であるダラム町から、土地の所有権と、その土地での学校建設許可を記した証明書を受け取りました。また、プロジェクトに対する協力の一環として、ダラム町政府と村議会は、それぞれ50,000ペソ、20,000ペソの合計70,000ペソ(1,683.30米ドル)の出資を約束しました。

工事開始前には、パレス・ペロ小学校で、再び住民集会を招集し、専門技術者やプラン職員から、村議会、親・教員・地域住民の会、学校関係者、子ども組織、親や子どもたちの代表に対し、建設デザインの最終案を発表しました。購入する教室備品の種類と数や、様々なプロジェクト関係者の役割と責任についても改めて話し合い、合意が得られました。さらに、プロジェクトの進捗管理と評価の方法についても話し合いました。

■ 建設工事

2008年9月23日、プロジェクト委員会とプラン職員からなる入札審査委員会の立ち会いのもと、入札によって建設業者を決定し、9月28日には建設作業が始まりました。

工事開始後は、関係者すべてが積極的に協力したことにより、プロジェクトは順調に進みました。地域の人々は、このプロジェクトが自分たちのものであると強く意識しているため、熟練技術を要

さない作業の大部分を引き受け、さらに建物が規格・品質基準を満たしているかどうか自ら確認作業も行いました。子どもたちも定期的に建設現場周辺の清掃を行うなどして、協力しました。

また、工事の進捗確認は、個別に行うこともあればいくつかの組織が共同で行うこともありました。親・教員・地域住民の会と学校関係者は、毎日共同で進捗確認を行い、村長と村議会の担当者も定期的に進捗確認に訪れ、議会でプロジェクトの進捗状況を報告しました。また、専門技術者も頻りに現場を訪れて進捗確認し、必要に応じて現場監督やプロジェクト委員会にフィードバックを行いました。プランは、多くの関係者と緊密に連携して、建設作業が適切に進行するよう、また問題が発生したらすみやかに解決するよう努めました。

■ プロジェクトの最終評価

建設工事の完了後、2009年2月13日、学校改善委員会がプロジェクトの最終評価を行いました。また、子どもたちと一緒に完成した建物を確認し、子どもたちの意見を聞く機会も設けました。

この最終評価では、完成した建物のデザインや品質だけでなく、地域の人々がプロジェクトの計画・実施・進捗確認・評価を行うことができるようになったか、プロジェクトの実施が現在および将来的に地域にどのような恩恵をもたらすか、などについても評価を行いました。その結果、最低点が1、最高点が10という評価基準のもと、このプロジェクトは8点という高得点を獲得、特に地域の人々がプロジェクトに子どもたちを積極的に参加させたことは、大変高く評価されました。

3. プロジェクトの成果

■ 子どもたちの学習環境の改善と、教育関係者の意識向上

安全で快適な2教室からなる校舎1棟が完成し、いす100脚と教材が支給されたことで、新教室を使用する1年生をはじめ全校児童154人の学習環境が大きく改善されました。室内の過密状態が解消され、全員が一人ずついすに座れるようになったため、子どもたちの授業に対する集中力が増しました。教師たちは新しい教材と改善された教室環境のおかげで、教育に対する熱意が高まり、授業の質も改善されました。また、教室には、清潔なトイレと手洗い場ができたので、校内の衛生環境改善にも役立ちました。加えて、広々とした教室には、教材などを並べて保管するスペースもあり、災害時には子どもたちが寝泊りする避難場所としての使用も可能となりました。

すでに新校舎の使用は始まっており、子どもたちの通学意欲・学習意欲は高まりを見せています。毎日通学している子どもたちは、学校に来なくなってしまった子どもたちに新校舎の良さを伝え、再び学校に通うよう働きかけています。親たちも、安全になった教室に子どもたちを安心して送り

出しているため、今後は就学率の上昇が期待できます。

■ 住民参加による、地域の能力強化

プロジェクト期間中、子どもたちを含む地域の人々、学校関係者、自治体の担当者などプロジェクトに関わるすべての人々が良好な協力関係を築き、うまく役割分担をしながらプロジェクトに積極的に参加しました。その結果、地域の人々の自治能力が高まり、プロジェクトによる成果を継続させていく体制が整いました。今後、新教室の維持管理は、主に学校改善委員会と子どもたちが担当し、子どもたちは学校の敷地内の定期的な清掃、施設の破損を防ぐための点検・監視を行うことを約束しています。一方、村議会は、警備員による学校とその周辺の定期的な安全確認、親・教員・地域住民の会は、資金を出し合い学校の電気料金の支払いを担当することになりました。また、プロジェクトを経験して、特に子どもの親たちが教育の重要性や子どもの権利に対する意識を高めることができました。

4. プロジェクト支出

しょうがっこうをおくる会様からいただいたご寄付21,998米ドル(238万円)は、下記のとおりすべて支出を終えました。ご寄付額と総支出との差額は、フィリピンでの活動を統括するプラン・フィリピンの年間予算より拠出してプロジェクトを完了いたしました。

活動内容	支出額(米ドル)
教室建設	29,836
教室備品の支給	363
合 計	30,199

5. 現地の声

「前の教室はぎゅうぎゅうづめでした。いすがとても小さくて立ち上がるのも大変で、身動きもできませんでした。雨季には雨が教室の中まで入ってきていつもびしょぬれでした。新しい教室はとても気持ちよくて、雨が降ってももうぬれません。ほんとうにどうもありがとう。」

(チェルシー・マリー・M・マタルム／1年生児童)



「私が受け持っている1年生の子どもたちのために新しい校舎ができてとても嬉しいです。これまで使っていた一時しのぎの教室はあまりに小さく、しかも子どもたちの数はとても多くて、困難を感じていました。教室にあふれる子どもたちを前に、時には集中して授業することができませんでした。子どもたちは2人で1つのいすに座っていて落ち着かず、ノートをとるのも大変でした。新しい校舎ができて授業がしやすくなり、とても助かっています。



す。校舎建設に関わって下さった皆様、特に支援者様とプラン・フィリピンに心から感謝します。新しい学校は私たちの誇りです。」

(ジル・P・アラズ／1年生の担任教師)

「以前は教室や教師が足りなくて、子どもたちは落ち着いて勉強できませんでした。教室は2つしかなく、1つの教室を2学年で使っていたので、勉強しづらかったのです。新しい校舎のおかげでそんな不便さから解放され大変喜んでます。プラン・フィリピンを通じて支援者様にいただいた校舎はとても素晴らしいです。とても快適で、電気も使えます。子どもの親として、また学校改善委員会会長として、この学校建設プロジェクトを行う機会を与えてくださった支援者様とプラン・フィリピンに対し、心からお礼申し上げます。」(ヴィヴェンシア・J・ランガオ／親、学校改善委員会会長)

「親として、新しい校舎にとっても満足しています。以前の教室は混雑していてとても暑かったので、私の娘は学校に行きたがらず、よく休んでいました。新しい校舎ができた今では毎日学校に通って一所懸命勉強しています。新しい教室に移り、嬉しくて興奮しているようです。また村の教育委員会委員長としても、新しい校舎が建設できて大変嬉しく、とても助かっています。村自体もよくなりましたし、今後も一層よくなるよう努めます。ご支援いただき本当にありがとうございました。今後も子どもたちのために学校改善の力になりたいと思っています。支援者様とプラン・フィリピンに心から感謝いたします。」

(クレセルダ・A・ネデラ／親、村役場職員)

「私たちはまず、子どもたちを含む地域の住民、学校関係者、村議会の議員たちとともに学校改善計画を練り、その内容をプロジェクト要望書としてまとめ、プランに提出しました。その要望書がプランに承認され、プロジェクトの実施が正式に決まると、親・教員・地域住民の会の代表であり子どもの親である私は、ただちに親・教員・地域住民の会と子どもたちを集めて話し合いを行いました。プロジェ



クトが無事完了し、新しい教室ができた今、親たちは、子どもたちが安全に過ごすためにはまわりの環境から危険なものを取り除いてきれいにすればよいことを理解するようになり、学校の清掃活動に大変積極的に参加するようになりました。教師たちも定期的に清掃活動に参加しています。親・教員・地域住民の会を代表し、このプロジェクトを支援して下さった方々に心から感謝いたします。未来の子どもたちのために、この学校をきちんと維持していくことをお約束いたします。」

(ロランド・A・アリエガ／親・教員・地域住民の会代表)

6. 写真



(左)完成した2教室からなる新校舎全景 (右)新校舎はやしの木に囲まれた広々した敷地の中に建っています。



(左)校舎を側面から見たところ。安全性を考慮して、通路には鉄製の手すりを設置しました。
(右)校舎の背面にも大きな窓がついているため、通気性が高く室内で快適に過ごせます。



(上左、上右) 新校舎は傾斜地に建てられたため、ダラム町政府と村議会からの出資で、鉄製の手すり付き階段が設置されました。これで、子どもたちは安全に階段を昇って学校に入ることができます。

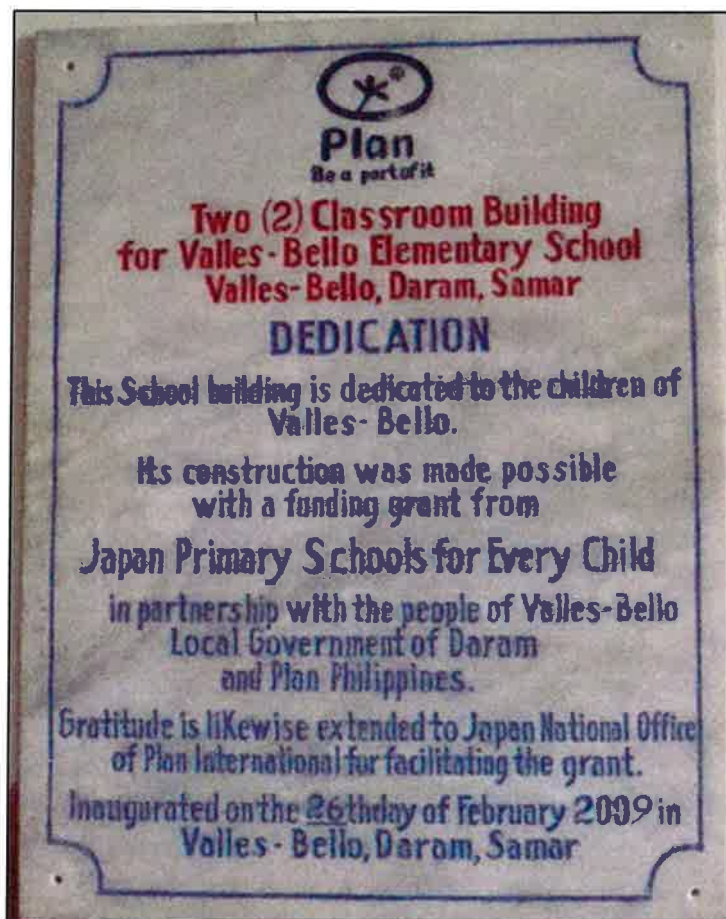
(左) 校舎の壁には、子どもの権利と責任について記されました。



記念プレート



ご支援に感謝して記念プレートを作成し、校舎正面の階段横に設置しました。



(プレート訳)

バレス・ベロ小学校の2教室校舎

献辞

この校舎は
しょうがっこうをおくる会様から
ご寄付により、
バレス・ベロ村の人々、
ダラム町役場、
プラン・フィリピンが協力して、
実現しました。

2009年2月26日落成
サマール州、ダラム町、
バレス・ベロ村

7. お問い合わせ先

財団法人 日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)

プラン特別プロジェクト担当 寺田 聡子

TEL:03-5481-6265/FAX:03-5481-6200

Email: terata@plan-japan.org